

和歌に込められた 思いや魅力を紹介

八学大短大客員教授
三村三千代さん講演

八戸学院大短期大学部客員教授の三村三千代さんによる講演会「和歌で発見！日本の美」が2日、八戸プラザホテルで開かれた。10世紀初頭に編さんされた最初の勅撰和歌集「古今和歌集」を中心に、和歌に込められた思いや魅力を伝えた。

三村さんは、現存する最古の和歌集「万葉集」など和歌の歴史を説明。「特に平安、鎌倉時代辺りの和歌は人と人とのコミュニケーションツール」と表現し、「日本の文化の中で、和歌の歴史はとても大事なものになっている」と語った。

古今和歌集については、「四季の美しさ」と「恋する心」を



和歌の魅力について説明する
三村三千代さん

表した歌が大半を占めるーとし、「日本の美意識の基本を作ったと言ってもいい。和歌の教科書のような位置付け」と紹介。「和歌の世界を通して、日本の美しい自然の再発見もできる」と述べ、和歌が持つ文化の薫りに親しんでもらえるよう呼びかけた。

三村申吾前青森県知事の妻でもある三村さん。約50人の参加者は、軽妙なトークと分かりやすい解説に熱心に耳を傾けていた。

講演会は有志団体「夢を語るマリンブルーの会」（三浦ひろみ代表）の主催で、八戸プラザホテルが後援。講演に先立ち、参加者はひな祭りをイメージした料理を味わいながら交流を深めた。会場には書道や花の作品が飾られ、「桃の節句」のムードを盛り上げた。（松原一茂）